



新生児集中ケア



がん化学療法看護



がん性疼痛看護



緩和ケア



認知症看護



認知症看護



糖尿病看護

# 私たち竹田の認定看護師です



皮膚・排泄ケア



訪問看護

## 質の高い看護実践と 相談・指導を行います



皮膚・排泄ケア



感染管理



感染管理



認定看護管理者



認定看護管理者



精神科認定



摂食・嚥下障害看護

## 認定看護師の紹介



### がん性疼痛看護認定看護師

「がんの痛みを緩和したい」

私のがん看護を学ぶきっかけとなったのは、以前配属された耳鼻科、乳腺外科、消化器外科の混合病棟で医療用麻薬を使用したことでした。様々な薬剤を使用してもがんの痛みが良くならないということ、患者さんや家族への指導が看護師によって違うこと、医師の指示を待つことへの不満がありました。「この指示で痛みが取れないのは何故だろう」という思いが強かったのかもしれませんが。

まずは、自分で学ぼうという意識と何事にも挑戦しようという気持ちが沸き起こり、上司に相談したところ、福島県立医科大学での2か月間のがん看護実務者研修に行く機会を得ました。その経験から、さらにスペシャリストになりたいという思いが強くなり、2011年、がん性疼痛看護の認定看護師教育課程を受験し無事合格することができました。東日本大震災の年に自宅を離れることは辛かったです。当時の上司をはじめ、病棟のスタッフ、家族が励ましてくれたおかげで7カ月という長い教育期間を終了することができました。

がん性疼痛看護とは、がん性疼痛に悩む患者さんや、ご家族の全人的な状態を総合的に判断し、個別的なケアを提供することです。また、医師やスタッフからどのように薬剤を使用したらいいかという相談にも対応します。現在は緩和ケア病棟に勤務し、がん性疼痛看護認定看護師として、痛みだけでなく様々な症状緩和に努めています。これからも、患者さんやご家族に「ここに来てよかった」と言ってもらえる病棟にしたいと思います。





## 皮膚・排泄ケア認定看護師

### 「その人らしい生活を維持するために」

皮膚・排泄ケア認定看護師は、創傷ケア・ストーマケア・失禁ケアの3つの領域のケアを専門的に行う看護師です。3つの領域に共通するスキンケアや排泄ケアは看護の基本となるものであり、患者さんの生活の質を大きく左右するものです。

私が最初に配属となった病棟には、日常生活のほとんどに介助を要する高齢の方が多く入院していました。自力での体動が困難でオムツ交換が必要な患者さんや、褥瘡ケアが必要な患者さんが多くいました。病棟の褥瘡担当者として他の看護師や介護福祉士と協力しながら褥瘡ケアや排泄ケアを行った結果、褥瘡やオムツかぶれが改善し、患者さんやその家族から温かい言葉をいただくことができました。ケアが必要であっても最後までその人らしい生活ができるように看護師として支えることができたらと思い、皮膚・排泄ケア認定看護師を目指しました。その後、資格取得に向けてストーマケアの知識が必要であったため、外科病棟で勤務しました。周りからたくさんの支援を受けたおかげで、皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を取得することができました。

現在は、褥瘡回診やストーマ外来を中心に活動しています。特に排泄に関することは周りに相談しにくく、一人で不安を抱えている患者さんが多くいます。患者さんやその家族の想いを聞き、その想いを尊重しながら適切な褥瘡ケアやストーマケアの指導を行い、その人らしい生活が維持できるように支援をしていきたいと考えています。



## 慢性心不全看護認定看護師

### 「疾患を抱えながらもその人らしい生活ができる心不全看護」

私が慢性心不全看護認定看護師を目指したきっかけは、自分の持っている知識や考えに自信が持てず、患者さんの想いに寄り添った看護ができなかったことでした。そんな時、認定看護師の資格を取りに行ってはどうかと上司が声をかけてくれました。資格を取得してからは、再入院を繰り返す患者さんの面談を行い、どのような想いがあり、どのような方法であればセルフケアができるのかについて、患者さんができている部分に焦点を当てながら一緒に考えています。そして、心不全終末期にある患者さんやご家族の想いに寄り添い、その想いを実現できるよう、定期的に心不全カンファランスを行っています。

今でも知識不足や不甲斐なさを感じることもありますが、同じ志を持っているスタッフや医師と共に、できる限り患者さんの想いに応えられるように奮闘しています。また、日々活動していく中で、患者さんから「ありがとう。あなたがいてくれてよかった。」という言葉をかけてもらうと、「私たちの看護は間違っていなかったんだな。また、がんばろう。」とやりがいを感じるすることができます。

日本における死因は、悪性新生物に次いで心疾患が第2位です。また、心疾患の中でも心不全で亡くなる方が多いと言われています。心不全は急性増悪による入退院を繰り返しながら最期を迎えますが、そのような状態でも患者さんがその人らしく生活することや、患者さんとそのご家族が望むような最期を迎えられるように支援していくことが私の役割だと考えています。







## がん化学療法看護認定看護師

「患者さんご家族が安心して治療を受けられるために」



看護師になり最初に勤務した部署は、血液内科病棟でした。その後も抗がん剤治療を行う病棟に勤務する機会が多く、副作用で口内炎ができたり、食欲が低下している患者さん、また、そんな患者さんを心配するご家族の方に接し何か自分にはできないことはないだろうか、と考えながら働いていました。同じ頃、抗がん剤治療は在院日数の短縮化や支持療法の充実により、入院治療から外来治療へとシフトしてきました。私自身も、院内に新しく設けられた化学療法室に勤務すること

になり、外来で患者さんご家族が安心し納得して治療に臨むことができるように、また患者さんが自分らしい生活を送りながら治療を継続できるように支援したいと思い、認定看護師を目指しました。

資格取得後も化学療法室に勤務し、患者さんやご家族の治療への不安や副作用による苦痛が最小限となるようケアを実践しています。副作用については患者さん自身でのケアも必要となるため、セルフケアについて患者さんと一緒に考えながら支援しています。最近、免疫チェックポイント阻害薬による治療が増えてきています。医師、薬剤師と連携し副作用モニタリングを行うことで、症状を早期に発見して重症化を防ぎ、患者さんが必要な治療を安心して継続できるように取り組んでいます。

認定看護師を目指すきっかけとなった、治療を受ける患者さんご家族の安心のために常に自己研鑽に努めるとともに、同じように看護を提供できる看護師を育成していくことが目標です。



## 摂食嚥下障害看護認定看護師

「口から食べることを支えるために」



私が摂食嚥下障害看護認定看護師を目指したきっかけは、誤嚥性肺炎を起こし食べられなくなった患者さんとの関わりです。その患者さんは、1日3回食事をしていましたが、食事時の嘔吐がきっかけで誤嚥性肺炎と診断されました。点滴治療を受けて食事を再開しようとしたのですが、飲み込む際にむせることが多くなり、経管栄養を開始することになりました。食事ができなくなった患者さんは、すぐに口腔周囲の筋力が衰え表情も乏しくなってきたことを覚えています。また、刺激がなくな

り家族や医療スタッフの声にも反応しない時間が増えていきました。この時の経験が「口から食べる」という事について考えさせられた一場面だったと覚えています。その後、栄養サポート委員会の活動で摂食嚥下に関する認定看護師の存在があることを知り、認定看護師教育課程に進むことを決めました。2018年に資格取得し、現在は脳神経外科・脳神経内科病棟に勤務しています。ここでは主に、脳梗塞や脳出血で麻痺のある患者さんと関り、飲み込む力が弱くなった患者さんが、安全に食べるためにはどのような工夫が必要であるかを日々考えています。また、麻痺がなくても栄養不足になり、筋力低下によって飲み込む力が弱くなってしまいう方もいます。毎日何気なく食べている食事が、ある日突然食べられなくなってしまうことはとても悲しいことです。今後、口から安全に食事が摂れる患者さんが増えるよう活動していきたいと考えています。



## 感染管理認定看護師

### 「地域へ向けて活躍できる感染管理認定看護師を目指して」

感染管理は病院を利用する患者さんやご家族、訪問者はもちろん、病院で働く全ての人々を感染から守る大切な役割を担い活動を行っており、院内でも重要な役割を担っています。

私が感染管理認定看護師を目指すきっかけは、新人の頃、一緒に働いていた先輩看護師が感染管理認定看護師を取得し活躍をしていたことでした。その先輩看護師は、医師と共に様々な感染防止対策について取り組み、常識としていた布ガウンを廃止し、新たにプラスチックエプロンを導入する他、閉鎖式吸引の導入など、環境をどんどんと変化させました。その中で、感染管理認定看護師としての影響力を実感し、「将来、私も周りに影響を与えられる人になりたい」と強く思いました。その夢を実現できたのは、感染管理認定看護師に興味があると言った私の言葉を忘れずにいてくれた看護課長と、認定看護師教育課程に進める条件を整えてくれたスタッフのおかげです。

現在の活動は主に、定期的な院内ラウンドでの環境確認や、様々な部署からの感染防止対策に関する相談を受けています。また、地域の病院と連携し感染対策についての情報交換や、お互いの病院を訪問評価しながら地域の感染防止対策の質の向上を目指し活動をしています。これから、感染管理認定看護師として常に新しい知識や技術を習得し、院内だけではなく地域の中にも発信できる認定看護師になれるよう頑張っています。



## 認知症看護認定看護師

### 「暮らしを支える看護」

私が会津にUターン就職したのは、20年前の春でした。外科看護しか経験のない私を大事に育てて下さる職場や地域の皆さんの温かさに包まれながら、私はどんどん地域医療・地域ケアに魅せられていきました。そして“あたりまえの暮らし”の尊さと難しさを感じながら老年看護や認知症看護に携わるうちに、「一人ひとりの思いや願いをもっと支える為に、より確かな看護を学びたい」という思いが高まり、仲間や家族に支えられながら認知症看護認定看護師の資格を取得しました。認知症看護には、認知判断力の変化によ

って生じる【生活のしづらさや困難な場面】を予測・気づき・判断・支援して、感情や自尊心を支え、人権を守り、心身の健やかさを保つ事が求められています。中でも私が最も大切にしているのは、認知症の進行に伴ってご自分の思いや願いの伝えにくさを抱える方の様々な【声】を丁寧に聴き、認知症によって不安や困難さを抱えやすい【心】を看ることです。

在宅認知症ケアの要となる【小規模多機能型居宅介護オレンジ】での看護は、住み慣れた会津や我が家で暮らし続ける方々の日常を支える拠り所となる事を目指しており、24時間365日アセスメント・実践・評価を繰り返し、安心と健やかさを提供します。「あなたと会うとホッとする」という言葉や、柔らかい笑顔、「またお会いしましょう」と手を重ねる瞬間に出会うたびに、この仕事のやりがいや奥深さを感じます。





## 精神科看護認定看護師

精神科認定看護師は、精神科看護の専門的知識や技術を用いて、質の高い精神科看護の「実践」「相談」「指導」「知識の発展」を役割としており、患者さんの「自律性の回復」と「その人らしい生活」の実現をめざした支援を行っています。また、精神科病棟では、精神保健福祉法のもと入院治療上さまざまな制限を受けることがあります。そのような制限が、人権擁護・法令遵守の視点から出来る限り少なく、早期になくなるようスタッフと一緒に話し合いを行いケアに取り組んでいます。ストレス社会の現代。こころに不調を感じている人は多いと思います。今後は「精神科」や「入院治療」に限らず、精神的健康について援助を必要としている方にも活動を行っていきたいと思います。



## 新生児集中ケア認定看護師

新生児集中ケア認定看護師は、早産や病気により治療を必要とする新生児の生理的安定を図り、成長・発達への個別的なケアを実践し、親子関係形成への支援を行います。NICUは治療だけでなく、新生児が家族とともに成長していく始まりを支える場所です。新生児が心地よく過ごせる場所を整え、ひとりひとりに合わせたケア方法を、多職種でチームとなり提供しています。また不安を抱えたご家族の気持ちに寄り添い、希望を取り入れながら、ご家族が中心となってケアに参加できるようサポートしています。新生児が家族の一員としてその子らしい人生をスタートできるように、より質の高くあたたかいケアの提供を目指し取り組んでいます。



## 訪問看護認定看護師



地域の方々が、「わたらしい生活を実現する」ために、どうすることが最善なのかを一緒に考え、医師や社会福祉士、施設の看護師、薬剤師などと連携し支援することが役割です。小児から高齢者まで幅広い年齢層の方々が生活する地域にあるそれぞれの我が家へ訪問し、看護サービスを提供しています。介護する人や介護される人、双方にとっての最善を一緒に考え支援させていただきます。支援者である看護師や介護職員の方々の現場での実践に対する方法の検討や提案、教育も行っています。是非、ご相談ください。